

令和 6 年 6 月 6 日現在

機関番号：12102

研究種目：挑戦的研究（萌芽）

研究期間：2018～2023

課題番号：18K18590

研究課題名（和文）キリスト教主義学校から見る日本人の寛容と洋化 - ステークホルダーらの期待と文化資本

研究課題名（英文）Japanese Tolerance and Westernization from the Perspective of Christian Schools: Stakeholders' Expectations and Cultural Capital

研究代表者

後藤 嘉宏（Goto, Yoshiro）

筑波大学・図書館情報メディア系・教授

研究者番号：50272208

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 4,800,000円

研究成果の概要（和文）：日本のキリスト教徒は人口比1%前後と僅かであるが、キリスト教学校の人気は根強い。先行研究ではその理由を運命の女性という男性目線から、女子の階層上昇に関連づける。他方本研究は階層上昇には関連づけるが先行研究の男性目線は外した。20年の東京神奈川在住の15～29歳のウェブモニター調査ではキリスト教学校の設立目的の推測等を聞いた。当事者たちは部外者よりミッションを布教という意味よりは神に与えられた使命として解していた。24年のカトリック中高一貫校に通った5名のグループインタビューでは、その人らしく生きることで神から与えられた使命をみつけ、階層上昇を目指す教育方針が定着していることを明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

キリスト教学校の人気に注目した研究は多いが、男性目線で女の圏を描くジェンダーバイアスが強い。本研究はジェンダーフリーの社会情勢を承けて、バイアスのない質問紙調査とインタビュー調査を行った。先行研究の佐藤八寿子、井上章一が指摘するキリスト教学校女子の3K（綺麗、金持ち、キリスト）については、本研究ではキリスト教学校の男女問わずにイメージを聞いたため、結果が出なかった。他方キリスト教主義の女子中高において階層上昇志向はあるが、先行業績にある玉の輿的な階層上昇ではなく自分の力でのし上がる階層上昇がそこでは志向されていることを明らかにした。以上の点で本研究の学術的・社会的意義は大きい。

研究成果の概要（英文）：Although the number of Christians in Japan is small, around 1% of the population, the popularity of Christian schools is strong. Prior research relates the reason for this to the rise in the hierarchy of girls from the male perspective of the doomed woman. On the other hand, this study relates to the rise in hierarchy but removes the male perspective of the previous studies. A 20-year web monitor survey of 15-29 year olds living in Tokyo-Kanagawa asked about the presumed purpose of establishing Christian schools, etc. They understood the mission as a God-given mission rather than a missionary mission from an outsider. A group interview with five students who attended a Catholic middle and high school for 24 years revealed a well-established educational policy of finding a God-given mission by living life as a person, and by doing so, rising in the hierarchy.

研究分野：メディア社会学、社会思想史

キーワード：キリスト教主義学校 階層上昇 階層再生産 ミッション ジェンダーバイアス 設立目的 文化資本

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

(1)日本人はクリスマスやキリスト教式結婚式に概ね肯定的である反面、キリスト教徒の数は日本人の人口の0.8%しかいない。また今回の研究の主題であるキリスト教主義学校も首都圏や関西圏では、人気がある。これら4者で比較すると、クリスマス、キリスト教式結婚式、キリスト教主義学校の3者と、キリスト教徒の数という1者の間で、断層がある。この断層を解明することで、日本の洋化、寛容の本質が見えてくると考えた。

ここで我々が想定したのは、丸山真男のいう、無限抱擁性と「不寛容なものに対する不寛容」の併存という、日本人の(庶民を中心にした)思想状況である(『日本の思想』1961年)。日本人は様々な異質な思想を受け容れる。そういった無限抱擁性がありつつも、キリスト教とマルクス主義に対しては一部の士族出身者や帝大出身者以外からは、疎んじられ、排斥される。なぜならキリスト教やマルクス主義は首尾一貫性、体系性を重んじていて、踏み絵のようにその首尾一貫性に反する行動や教義に対して不寛容であるからである。

ではなぜクリスマス、キリスト教式結婚式、キリスト教主義学校の3者は受け容れられるのか?それは、これらが、他を排除しないからである。無限抱擁性というときの「抱擁」の対象の一つとしてそれら3者の一つ一つは位置づけられるからである。

幸い本科研費採択直後、新たな先行研究、井上章一ほか『ミッションスクールになぜ美人が多いのか:日本の女子とキリスト教』(2018年)が現われた。そこではキリスト教は一見負け組であるが、じつは勝ち組であると主張される。その証拠はクリスマス、キリスト教式結婚式、キリスト教主義学校の3者の隆盛にある。ではなぜ、キリスト教徒の数が少ないのか?井上らは、洗礼という高いハードルがネックになっているだけであるという。もしも洗礼が不要であれば、「無限抱擁」的な日本人の信仰様式から「トリプルな信仰」になるはずであると井上らはいふ。

この井上らの「トリプルな信仰」という発想は、丸山真男の「不寛容なものに対する不寛容」の併存というキリスト教像とは、真っ向から対立する。

なおもう一つの主要先行研究として佐藤八寿子『ミッション・スクール:あこがれの園』(2006年)がある。

(2)井上、佐藤共に以下の3つの特徴をもつ。1)質問紙調査やインタビュー調査での、キリスト教主義学校当事者の生の声を記録したものではない。井上らの本は第2章で統計資料、第3章、第4章で歴史的な文献資料を扱っているが、現在の人びとの意識についての実証に乏しい。「はじめに」や第1章で統計資料、文献資料以外で現代の人びとの意識を知る術は、ほぼ井上の非常勤先の学生との会話や、現代風俗研究会での報告会、ICUでのシンポジウム等で交わされた応答のみである。佐藤の研究は小説、雑誌、漫画等の過去のメディア上のコンテンツの分析を主たる方法とするため、研究のバイアスとして佐藤自身が記しているように、キリスト教主義学校の男子学生についての議論は充分でないし、実際に人びとのいづく意識等の調査はしていない。2)それぞれの本の主題あるいは副題からも察せられるように、男性目線の憧れの園としてのキリスト教主義学校という視線が強い。3)両者ともに、キリスト教主義学校に通うことによる、文化資本等の教育効果に言及している。

2. 研究の目的

(1)よってこれら二つの主要先行研究はキリスト教主義学校当事者の生の声を記録したものではないので、生の声を含めた、実態から再構成し、これら二つの調査の追試を行う。ただし両者共に男性目線というジェンダーバイアスがあるので、これを外した調査計画・設計を行う。また仮想的に、我々は井上ほかの「トリプルな信仰」と丸山の「不寛容なものに対する不寛容」の併存というキリスト教像と対決させているので、それらのいずれか是かをウェブモニター調査(質問紙調査)で確認する。またウェブモニター調査で、インフォーマントにキリスト教主義学校の側の学校設立のメリットについての推測について聞いている。よって、インフォーマントのキリスト教主義学校の当事者性の大小によって、これらの回答に差があれば、キリスト教主義学校の側が学校設立のメリットをどのように考えているかのアウトラインが、間接的に計り知れる。またウェブモニター調査において、インフォーマントにキリスト教主義学校の生徒・学生のイメージについて聞いている。それもインフォーマントのキリスト教主義学校の当事者性の大小によって、これらの回答に差があれば、キリスト教主義学校当事者の自己認識が確認できる。特に井上、佐藤共に、キリスト教主義学校女子の「3K」を強調する。綺麗、金持ち、キリスト教の3つのKが揃っているのがキリスト教主義学校であるというのである。

(2)以上のウェブモニター調査を2020年(2019年度)に行い、コロナ禍になり、集計も手間取り、2023年によろやくプレプリントを出すに至った。2024年(2023年度)、今度はキリスト教主義学校卒業生のグループインタビューを行うこととした。ウェブモニター調査では、キリスト教主義学校の側が学校設立のメリットをどのように考えているかのアウトラインが、間接的に計り知れたが、グループインタビューによって、より学校当局の身近にいる者の眼から跡付けることが可能となるからである。

3. 研究の方法

(1) 2020年のウェブモニター調査は、東京・神奈川在住の15~29歳の者に行った。サーベイリサーチセンターに登録してある、条件に合うモニターに回答を依頼し、700名に到達した時点で回答を打ち切った。

(2) 2024年のグループインタビューは1回目はプロテスタントの女子中高一貫校卒業生4名に対して行った。2回目はカトリックの女子中高一貫校卒業生5名に対して行った。後者の方から分析にとりかかり、英文雑誌に投稿準備中である。

4. 研究成果

(1) 2020年のウェブモニター調査の重要な点を記す。この調査のQ12はインフォーマントのキリスト教主義学校への関与度を聞いている。Q34は「あなたが思う、キリスト教主義学校に対する設置母体のメリットに当てはまるものを上位3つまでの間で選び、中でも最もメリットだと思うものを1つ選んでください」とMA(マルチアンサー)とSA(シングルアンサー)双方で聞いている。このMAの方で当該選択肢を選ばなかった者を1、選んだものを0として従属変数にして、キリスト教主義学校当事者指数のQ12を独立変数として、両者をクロス集計する。それを集計の基本的な方法とまず考える。

(2) それでこのQ34の選択肢9は「信者にならなくても、キリスト教の教えを守ることによって、救われる可能性のある人を増やすこと」である。これは全体で13.3%で「よく分からない」を除いてMAの単純集計で4番目である。この選択肢を選ばなかった者を1、選んだものを0として従属変数にして、キリスト教主義学校当事者指数のQ12を独立変数として、両者をクロス集計すると、有意差 <0.01 で、キリスト教主義学校に通ったことがある者はこの選択肢9「信者にならなくても、キリスト教の教えを守ることによって、救われる可能性のある人を増やすこと」を選ぶ者が相対的に多く、27.8%いた。他方、通ったことはないが何らかの当事者性のあるグループは中間で11.3%、関与の全くない者は選択肢を選ぶ者が10.4%であり、この設問の回答はキリスト教主義学校当事者性の大小と相関する。

先述のように、井上ほか(2018)では「宗派に帰属しない日本人のトリプル信仰」(井上ほか2018 p.136)に着目するが、この調査結果は、キリスト教主義学校の通学者はこのようなトリプルな信仰を想定している者が相対的に多いことを裏づける結果といえる。同書では「日本社会の「トリプル信者」を生み出す要素はいろいろあるだろうが、重要なのは中学校・高等学校の教育ではないかと思う」(井上ほか2018 p.139)として、キリスト教主義の高校が全国の4.2%と、キリスト教徒の比率よりは多く、しかも名門校が多いことも関連するとする。この井上らのトリプルな信仰に合うような情操教育をキリスト教主義学校が行っていると、キリスト教主義学校に通ったことがある者から認識されていることが、この調査結果から分かる。

(3) ウェブモニター調査のQ29はキリスト教主義学校の生徒・学生のイメージを聞いた。この問いも先述のQ34同様、MAで「イメージしたもの」3つとSAで「最もイメージしたもの」1つを挙げてもらった。またこちら、このMAの方で当該選択肢を選ばなかった者を1、選んだものを0として従属変数にして、キリスト教主義学校当事者指数のQ12を独立変数として、両者をクロス集計する。

(4) 選択肢3が「教養が豊かである」であり、MAベースで20.1%である。キリスト教主義学校に通学経験のある者は「教養が豊かである」を選ぶ者が31.5%、通学経験はないが、キリスト教主義学校に当人ないしは家族がかかわりある者で「教養が豊かである」を選ぶ者は23.2%、かかわりのない人では「教養が豊かである」を選ぶ者は16.0%であった(カイ二乗 <0.01)。キリスト教主義学校にかかわりの高い者ほど、キリスト教主義学校出身者を「教養が豊かである」と自認している、といえよう。また選択肢5の「品がよい」がMAベースで16.3%でキリスト教主義学校関与度の高い者ほど、「品が良い」を選択する傾向にある(カイ二乗 <0.01)。

(5) 他方、いわゆる3Kについては選択肢11の「裕福である」、選択肢13の「容姿端麗である(みめうるわしい)」を用意した。双方ともQ12とクロスして有意差がなかった。これは佐藤や井上の先行研究が関西を地盤に置いていて、関東圏での本調査と地域差があったためか、今回、ジェンダーバイアスフリーで調査を設計したためかは不明である。

(6) Q29の選択肢でMAベースでも回答者の少なかったという点で特記すべきものとしては、選択肢23の「論理の整合性を尊ぶ」で、16番目でMAベースで2.4%しか選ばれていない。これは丸山真男の『日本の思想』でキリスト教とマルクス主義が首尾一貫性を重んじる思想であるがゆえに、無限抱擁的に内外の思想宗教を受け入れてきた日本の固有の文化となじまずに、日本ではこれらキリスト教徒やマルクス主義者が知識人層以外に増えなかったという指摘を意識して入れた選択肢である。なお、この選択肢を選んだ者とQ12をクロス集計したが有意差はなかった。実際この回答が少なかったのは、キリスト教の一神教としての首尾一貫性という丸山その他から従来いわれてきた通説を人びとが意識しない結果なのか、あるいはクリスマスやキリスト教式結婚式と類似した習俗のみの次元でキリスト教主義学校の生徒・学生を捉えた結果なのかは分からない。しかし井上らと「トリプルな信仰」と丸山の「首尾一貫性を重視するキリスト教」との対比でいうと、前者に近い捉え方が一般的である可能性が示唆される。

(7) 上記したように2020年の東京神奈川在住の15~29歳のウェブモニター調査ではキリ

スト教学校の設立目的の推測等を聞いた。その結果、(2)に記したように、「信者にならなくても、キリスト教の教えを守ることによって、救われる可能性のある人を増やすこと」を設立目的と考える人が、通学経験者に多いことが、分かった。また補足的に、学校公式ウェブを調査したところ、当事者たちは部外者よりミッションを布教という意味よりは神に与えられた使命として解していたことが分かった。そのことを承けて、24年にカトリック中高一貫校に通った5名のグループインタビューで、当事者の生の声を聴くこととした。その結果、その人らしく生きることで神から与えられた使命をみつけ、そのことで階層上昇を目指す教育方針が生徒のあいだで定着していることを明らかにした。よって当事者たちの声で、キリスト教主義学校の理念と目的を聞きだしたと同時に、ジェンダーバイアスを外しても、階層上昇とキリスト教主義学校への通学が結びつくことを確認した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計35件（うち査読付論文 13件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 17件）

1. 著者名 後藤 嘉宏	4. 巻 52
2. 論文標題 井口一郎『マス・コミュニケーション』（一九五一年）：マスコミ研究の統合的視座の提示	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 メディア史研究	6. 最初と最後の頁 13～21
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 後藤 嘉宏	4. 巻 53
2. 論文標題 書評 中村督『言論と経営：戦後フランスにおける「知識人の雑誌」』	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 メディア史研究	6. 最初と最後の頁 224-243
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 後藤嘉宏	4. 巻 4
2. 論文標題 メディア・アクセス権の今昔：ワクチンやウクライナ等に関する、SNS上での言論・表現の自由の問題をめぐって	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 思想の科学研究会年報	6. 最初と最後の頁 77-89
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 千 錫烈	4. 巻 46
2. 論文標題 千代田区立千代田図書館における入館禁止処分事件についての考察：図書館の利用の自由を手掛かりとして	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 関東学院大学人文科学研究所報	6. 最初と最後の頁 9-41
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 木村 周平; 堀口佐知子; 後藤亮平; 飯田淳子; 小曾根早知子; 金子惇; 照山絢子; 濱雄亮; 春田淳志; 宮地純一郎	4. 巻 -
2. 論文標題 日本のプライマリ・ケア医のコロナワクチン接種の実践についての文化人類学的考察 スケーラビリティとノンスケーラビリティのはざままで	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 F1000Research	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Fumi Katayama	4. 巻 20
2. 論文標題 Current Status and Issues of Providing Cloth Books in Japanese Public Library: Focusing on Remote Library Services	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 言語文化研究	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 片山ふみ	4. 巻 116 (10)
2. 論文標題 こども図書館における体験的学び	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 図書館雑誌	6. 最初と最後の頁 598 ~ 599
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松井勇起、後藤 嘉宏	4. 巻 19-1
2. 論文標題 加藤秀俊のタフネス性と先見性 中井正一のメディウム・ミッテル概念を用いた考察	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 図書館情報メディア研究	6. 最初と最後の頁 1-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 周藤彩、片山ふみ、後藤 嘉宏	4. 巻 63-1
2. 論文標題 公共図書館職員の読み聞かせ絵本の選択にかかわる意識 ブックリスト掲載本の傾向分析に基づくライフ ストーリーインタビューから	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 読書科学	6. 最初と最後の頁 1-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 後藤嘉宏	4. 巻 3
2. 論文標題 人間の記憶と情報メディアについての省察 (1)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 思想の科学研究会年報	6. 最初と最後の頁 22-25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 春田 淳志、武富 貴久子、照山 絢子、堀内 (高屋敷) 明由美、竹村 洋典	4. 巻 44 (4)
2. 論文標題 どのように質的研究と関わるとよいのか? 多職種による初学者にむけた提案	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本プライマリ・ケア連合学会誌	6. 最初と最後の頁 160-171
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 照山絢子、叶 少瑜	4. 巻 121
2. 論文標題 コロナ禍における大学生の学生生活とSNS使用	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 電子情報通信学会誌研究報告 (信学技報)	6. 最初と最後の頁 39-44
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Junji Haruta, Sachiko Horiguchi, Junichiro Miyachi, Junko Teruyama, Shuhei Kimura, Junko Iida, Sachiko Ozone, Ryohei Goto, Makoto Kaneko, Yusuke Hama	4. 巻 22(6)
2. 論文標題 Primary care physicians' narratives on COVID 19 responses in Japan: Professional roles evoked under a pandemic	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of General and Family Medicine	6. 最初と最後の頁 316-326
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Fumi Katayama, Saki Higuchi, Ena Ueda, Sara Hoshikawa, Riko Kobayashi, Yu Sasaki	4. 巻 19
2. 論文標題 Acceptance Tendency of Japanese Folktales: Focusing on Folktale Types and Motifs	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 言語文化研究	6. 最初と最後の頁 69-105
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 後藤嘉宏	4. 巻 2
2. 論文標題 三木清のパスカル、親鸞像と中井正一における対話の論理の再構築	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 思想の科学研究会年報	6. 最初と最後の頁 110-152
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 後藤嘉宏	4. 巻 2
2. 論文標題 志明院から帰ってきて思ったこと - 宗教とエコロジーと人間の安全	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 思想の科学研究会年報	6. 最初と最後の頁 8-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤谷道夫	4. 巻 97
2. 論文標題 自由をめぐる闘争～学問と科学の歴史の視点から～	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 神奈川大学評論	6. 最初と最後の頁 105-113
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大畑裕嗣	4. 巻 16
2. 論文標題 「移行民主化」への疑義と市民社会再審 ある韓国研究者の立場から	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 明治大学心理社会学研究	6. 最初と最後の頁 49-57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 佐藤裕紀; 照山 絢子	4. 巻 51
2. 論文標題 デンマークにおけるヒューマンライブラリーに関する分析 - 実施の形態と社会的背景に着目して-	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 異文化間教育	6. 最初と最後の頁 1-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 照山絢子, 木村周平, 飯田淳子, 堀口佐知子, 春田淳志, 濱 雄亮, 金子 惇, 宮地純一郎, 小曾根早知子, 後藤亮平	4. 巻 24
2. 論文標題 「ソーシャルディスタンス」の時代のエスノグラフィー - デジタルプラットフォームを活用した調査を事例として	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 白山人類学	6. 最初と最後の頁 101-114
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 千 錫烈	4. 巻 20号
2. 論文標題 公共図書館における問題行動に関する研究 - テキストマイニングを用いた自由記述の分析から -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 図書館総合研究	6. 最初と最後の頁 1-30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 野口 康人 , 片山 ふみ	4. 巻 62 (2)
2. 論文標題 司書養成課程における絵本観：児童サービス論の教科書で紹介される絵本の傾向および選書についての記述から	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 読書科学	6. 最初と最後の頁 85-97
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 後藤嘉宏	4. 巻 1
2. 論文標題 なぜ私は中井正一のメディウム、ミッテル概念にこだわり続けているのか	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 思想の科学研究会年報	6. 最初と最後の頁 84-106
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大畑裕嗣	4. 巻 15
2. 論文標題 独我論ノート	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 明治大学心理社会学研究	6. 最初と最後の頁 1-18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 片山ふみ	4. 巻 31
2. 論文標題 子どもの本にかかわる大人のハビトゥス：職業ごとの共通点と相違点	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 文学研究	6. 最初と最後の頁 1-9 (91-83)
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 後藤嘉宏	4. 巻 16 (2)
2. 論文標題 中井正一における三木清からの影響についての再考 中井の三木への批判的眼差しと肯定的眼差しの交錯に焦点を当てて	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 図書館情報メディア研究	6. 最初と最後の頁 63-81
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15068/00154844	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 佐藤 圭一, 原田 峻, 永吉 希久子, 松谷 満, 樋口 直人, 大畑 裕嗣	4. 巻 32
2. 論文標題 3.11後の運動参加 反・脱原発運動と反安保法制運動への参加を中心に	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 徳島大学社会科学研究	6. 最初と最後の頁 1-84
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 大畑 裕嗣	4. 巻 14
2. 論文標題 デモ参加とSNS利用・団体加入の関連 ネットワークのなかのメディアと運動	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 明治大学心理社会学研究	6. 最初と最後の頁 1-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 大畑 裕嗣	4. 巻 85
2. 論文標題 何が起こった(ている)? ウィリアム・ドレイの歴史的説明論と戦後社会学, 現代日本の社会運動論	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 明治大学人文科学研究所紀要	6. 最初と最後の頁 49-82
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 千錫烈	4. 巻 56(2)
2. 論文標題 東日本大震災後の地域再生と図書館 (特集 地域再生と図書館)	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 現代の図書館	6. 最初と最後の頁 55-65
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 千錫烈	4. 巻 (497)
2. 論文標題 岩手県立図書館における指定管理者制度と職員体制	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 みんなの図書館	6. 最初と最後の頁 39-49
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 千錫烈	4. 巻 112(12)
2. 論文標題 子どもの読書の有効性: 「読解力」「学力」「非認知スキル」の観点から	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 図書館雑誌	6. 最初と最後の頁 808-811
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 千錫烈	4. 巻 57
2. 論文標題 大学図書館における危機管理	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 館灯	6. 最初と最後の頁 1-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 千錫烈	4. 巻 113 (1)
2. 論文標題 性の多様性に関する絵本の扱い	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 図書館雑誌	6. 最初と最後の頁 7
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 菅原 早紀; 照山 絢子	4. 巻 48
2. 論文標題 ヒューマンライブラリーにおける対話と自己理解ー繰り返し参加する「本」の語りからー	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 異文化間教育	6. 最初と最後の頁 116-130
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計13件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 千 錫烈
2. 発表標題 千代田区立図書館における退館命令と入館禁止措置についての判例考察
3. 学会等名 図書館問題研究会 第49回研究集会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 柿野菜々、岸田みなも、木村遥、小宮鈴、武田憂香、田中優花、西山なつ保、平井響、藤永美冬、布施祐希奈、森下有希、山崎月子、山本蘭、和田実優、片山ふみ
2. 発表標題 視覚障害者も健常者も楽しめるPOP
3. 学会等名 第24回図書館総合展 ONLINE plus
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 西垣通、河井孝仁、長谷川幸代、西田洋平、後藤嘉宏、河島茂生
2. 発表標題 シンポジウム「社会情報と情報メディア ～図書館情報学を架橋に～」(社会情報学会・情報メディア学会 合同企画)
3. 学会等名 社会情報学会、情報メディア学会共催、日本図書館情報学会後援
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 石堂彩、大田陽香、釜井美咲、木村由紀乃、藤佳純、前川晴香、片山ふみ
2. 発表標題 電子書籍では代替できない資料「布の絵本」提供の現状と課題
3. 学会等名 第23回図書館総合展 ONLINE plus
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 藤谷道夫
2. 発表標題 地獄篇第5歌～訳と解説～
3. 学会等名 イタリア文化会館主催講演会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 藤谷道夫
2. 発表標題 煉獄篇第5歌～訳と解説～
3. 学会等名 イタリア文化会館主催講演会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 藤谷道夫
2. 発表標題 『神曲』最大の矛盾に挑む～煉獄篇第22歌113～
3. 学会等名 ダンテ国際シンポジウム「今、ダンテを問うInterrogare Dante Oggi」（イタリア学会主催・京産大共同主催）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 大畑裕嗣
2. 発表標題 誰が何を「厚く」記述するのかーライルとギアーツの「厚い記述」
3. 学会等名 日本社会学理論学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 大畑裕嗣
2. 発表標題 日本の社会運動参加者のメディア利用傾向性研究
3. 学会等名 韓国言論情報学会秋季学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 大畑 裕嗣
2. 発表標題 SNS時代の社会運動？ 運動への勧誘をめぐるネットワークの位置づけ
3. 学会等名 日本政治学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 大畑 裕嗣
2. 発表標題 3.11後の社会運動は何を遺したのか？ デモの遺産をめくって
3. 学会等名 シンポジウム「3.11後の社会運動 8万人データによる検証」（上智大学グローバル・コンサーン研究所主催）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 片山ふみ,野口康人
2. 発表標題 人的要因による図書館資料の汚破損の軽減を目的とした利用者教育アプリの提案：大学図書館利用者への意識調査を踏まえて
3. 学会等名 情報メディア学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 片山ふみ
2. 発表標題 図書館員と保育士の絵本に対する価値観
3. 学会等名 聖徳大学言語文化研究所主催研究発表会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計7件

1. 著者名 山本順一、山中康行、坂本俊、千錫烈、田嶋知宏ほか	4. 発行年 2022年
2. 出版社 NextPublishing Authors Press	5. 総ページ数 422
3. 書名 山本順一先生古希記念集	

1. 著者名 千錫烈、野口武悟ほか	4. 発行年 2023年
2. 出版社 日外アソシエーツ	5. 総ページ数 103
3. 書名 Webで学ぶ情報検索の演習と解説 : 情報サービス演習	

1. 著者名 辻泰明	4. 発行年 2022年
2. 出版社 和泉書院	5. 総ページ数 188
3. 書名 平成期放送メディア論 テレビからインターネットへの転換はどのように進んだのか	

1. 著者名 藤谷道夫	4. 発行年 2021年
2. 出版社 教育評論社	5. 総ページ数 256
3. 書名 ダンテの『神曲』を読み解く	

1. 著者名 樋口直人、松谷満、大畑裕嗣、佐藤圭一、永吉希久子、原田峻、パーバラ・ホルトス	4. 発行年 2020年
2. 出版社 筑摩書房	5. 総ページ数 219
3. 書名 3・11後の社会運動 8万人のデータから分かったこと	

1. 著者名 辻泰明	4. 発行年 2020年
2. 出版社 大学教育出版	5. 総ページ数 172
3. 書名 映像アーカイブ論 記録と記憶が照射する未来	

1. 著者名 辻泰明	4. 発行年 2018年
2. 出版社 和泉書院	5. 総ページ数 212
3. 書名 昭和期放送メディア論 女性向け教養番組における「花」の系譜	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	大畑 裕嗣 (Ohata Hiroshi) (10176977)	明治大学・文学部・専任教授 (32682)	
研究分担者	千 錫烈 (Sen Suzuretshu) (10584253)	関東学院大学・社会学部・教授 (32704)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	照山 絢子 (Teruyama Junko) (10745590)	筑波大学・図書館情報メディア系・准教授 (12102)	
研究分担者	辻 泰明 (Tsuji Yasuaki) (30767421)	筑波大学・図書館情報メディア系・客員研究員 (12102)	
研究分担者	藤谷 道夫 (Fujitani Michio) (50212189)	慶應義塾大学・文学部（日吉）・教授 (32612)	
研究分担者	片山 ふみ (Katayama Fumi) (80507864)	聖徳大学・文学部・准教授 (32517)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関